



<震災後の家族についての意識>

震災後、「家族の絆」についての意識や行動に変化があった人が半数以上

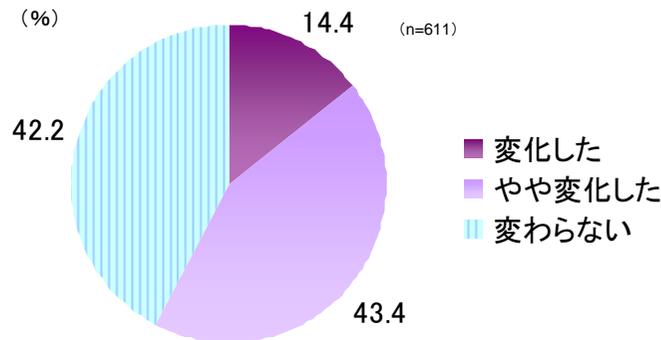
東日本大震災後、「家族の絆」について、意識や行動が「変化した」「やや変化した」人が57.8%(グラフ①)。半数以上の人が家族の絆についての意識や行動に何らかの変化があったと回答している。

震災後に強くなった意識は家族と一緒に過ごしたい、家族の健康を守りたいなど

東日本大震災後、家族についての意識で強くなったことを3つまで選んでもらった(グラフ②)。全体では「家族と一緒に過ごす時間を増やしたい」「家族の健康を守るために努力したい」「子どもを守るために努力したい」が上位だ。

ライフステージ別に見ると、子どもが小学生以下と小さいうちは、子どもを守る意識が他の世代より高い。子どもが大きくなってくると、家族の健康を守りたい、家族間のメール連絡などを増やしたい、家族が揃う食事の時間を増やしたいなど、コミュニケーションに関心が向いてくる。

(グラフ①)東日本大震災後、「家族の絆」についての意識や行動について変化はありましたか？



(グラフ②)東日本大震災後、家族についての意識で強くなったことはありますか？ 3つまで選んでください。

ライフステージ別



<回答者プロフィール>

●年齢:20代以下 3.8%、30代 28.4%、40代 37.9%、50代 19.0%、60代以上10.8%。●職業:専業主婦 61.6%、フルタイム 12.8%、パートアルバイト 23.3%、そのほか 2.3%。●未既婚:既婚 100%。●居住地:北海道3.0%、東北2.7%、関東47.9%(東京都16.8%、神奈川県14.6%、千葉県8.5%、埼玉県6.4%、茨城県0.3%、栃木県1.3%)、中部7.7%、近畿34.2%(大阪府15.1%、兵庫県11.2%、京都府2.0%、滋賀県1.0%、奈良県0.1%、和歌山県0.4%、三重県0.1%)、中国2.7%、四国1.8%、九州・沖縄4.3%。

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430